

眼形成・眼窩・涙道外科を受診している患者さんへ

当科では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	甲状腺眼症における眼窩自然減圧の影響因子
研究機関名	愛知医科大学病院
研究機関の長	病院長 藤原祥裕
担当科等	眼形成・眼窩・涙道外科
研究責任者	准教授 高橋靖弘
試料・情報を利用する学外の研究機関名・研究責任者名	該当なし
研究の意義・目的	眼球の収まる骨の窪みである眼窩は4つの壁から構成されており、そのうち内壁と下壁は薄い骨で形成されています。この壁は通常、眼窩の内側に向かって盛り上がった形状をしていますが、甲状腺眼症患者において、これらの壁が眼窩の外側に向かって変形することがあります。これを眼窩自然減圧と呼び、甲状腺眼症による眼窩内の構造変化に伴い、これらの薄い壁が再構築されて起こるとされています。本研究ではこの眼窩自然減圧が起こるための影響因子を調べることを目的としています。
対象となる患者さん	2016年1月から2019年1月までに甲状腺眼症と診断され、眼窩減圧術を受けた患者さん
研究の方法	患者さんのCT画像を用いて、眼窩内壁と下壁の突出・陥凹程度を測定します。その後、診療録とCT画像を用いて眼窩自然減圧に影響を与えると推測される因子に関連したデータを取得し、統計処理をします。
研究期間	倫理審査承認日～2021年8月31日
研究に用いる試料・情報	情報：患者さんの年齢、性別、甲状腺眼症症状の出現からCTを撮るまでの期間、ステロイドパルス治療の既往の有無、CT撮影時の眼球突出度、眼圧、視神経症の有無、及びCT画像
外部への試料・情報の提供	なし
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、下記問い合わせ先まで申し出てください。
その他	特記事項なし

問い合わせ先	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科 担当者：准教授 高橋靖弘 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311（内線 12314）
--------	---